

Signature Editor の使用方法

このモジュールでは、Signature Editor ツールおよびこれを使用した Dynamic Signature Script (DSS) ファイルの作成と修正方法について説明します。

Signature Editor ツールでは、SCA BB でまだサポートされていない新しいネットワーク プロトコルの知識に基づいて、Cisco Service Control Application for Broadband (SCA BB) でプロトコルおよびプロトコル シグニチャの追加および修正ができる DSS ファイルの作成および修正ができます。

- [DSS ファイルの管理についての情報 \(p.12-2\)](#)
- [Signature Editor Console \(p.12-11\)](#)
- [DSS ファイルの作成 \(p.12-11\)](#)
- [DSS ファイルの編集 \(p.12-14\)](#)
- [シグニチャのインポート \(p.12-15\)](#)

DSS ファイルの管理についての情報

- アクティブなサービス コンフィギュレーションに新しいシグニチャをインストールする方法については、「[プロトコルパックのインストール方法](#)」(p.4-13) で説明します。
- Service Configuration Editor でシグニチャを操作する方法については、「[プロトコル シグニチャの管理](#)」(p.7-39) で説明します。
- サーバ設定ユーティリティ servconf を使用してシグニチャを適用する方法については、「[SCA BB Service Configuration Utility についての情報](#)」(p.13-2) で説明します。

DSS ファイルのコンポーネント、および DSS ファイルの作成と編集については、次のセクションで説明します。

- [DSS ファイルのコンポーネントについての情報](#) (p.12-2)

DSS ファイルのコンポーネントについての情報

DSS ファイルのコンポーネントは、Signature Editor の Script ペインにツリー構造で表示されます。DSS コンポーネント ツリーの適切なノードを選択すると、ノードに関連するプロパティを Property ペインで定義できるようになります。

次のセクションでは DSS ファイルのコンポーネントについて説明します。

- [DSS ファイル](#) (p.12-2)
- [DSS プロトコル リスト](#) (p.12-3)
- [DSS プロトコルについての情報](#) (p.12-3)
- [DSS シグニチャについての情報](#) (p.12-4)
- [DSS 詳細検査句](#) (p.12-9)
- [DSS 詳細検査条件](#) (p.12-9)

DSS ファイル

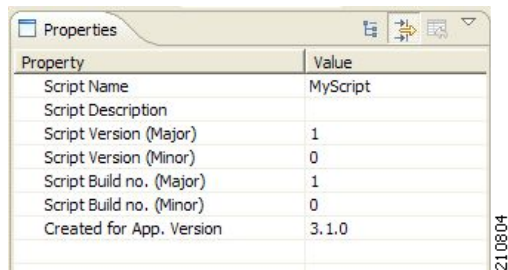
DSS ファイル名は、DSS ファイルのコンポーネント ツリーのルート ノードです。

ルート ノードを選択すると、DSS ファイルの次のプロパティを定義できるようになります。

- Script Name — スクリプトのわかりやすい名前を入力します。
- Script Description — スクリプトを作成した理由を入力し、その内容について説明します。
- Script Version (Major)
- Script Version (Minor)
- Script Build Number (Major)
- Script Build Number (Minor)
- Created for Application Version — 定義済みの値のリストから選択します。

次の図は、DSS ファイル プロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-1



Property	Value
Script Name	MyScript
Script Description	
Script Version (Major)	1
Script Version (Minor)	0
Script Build no. (Major)	1
Script Build no. (Minor)	0
Created for App. Version	3.1.0

DSS ファイルには単一プロトコル リストが含まれます。

DSS プロトコル リスト

プロトコル リストには、定義するプロパティがありません。プロトコル リストには、追加、修正、拡張を行っているすべてのプロトコルが含まれます。

DSS プロトコルについての情報

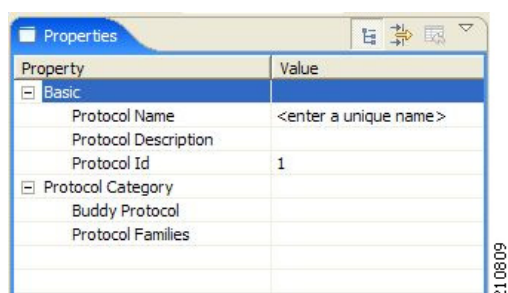
DSS ファイルのコンポーネント ツリーからプロトコル ノードを選択すると、プロトコルの次のプロパティを定義できるようになります。

- Basic
 - Protocol Name — 「プロトコル名および ID の設定」 (p.12-4) を参照してください。
 - Protocol Description
 - Protocol ID — 「プロトコル名および ID の設定」 (p.12-4) を参照してください。
- Protocol Category
 - Buddy Protocol — 「バディ プロトコル」 (p.12-4) を参照してください。
 - Protocol Families — 1 つ以上のプロトコル ファミリーにプロトコルを割り当てます。
 - P2P
 - SIP
 - VOIP
 - Worm

プロトコル ファミリーにプロトコルを関連付けると、ファミリーに関するレポートに新しいプロトコルが組み込まれます。

次の図は、プロトコル プロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-2



Property	Value
Basic	
Protocol Name	<enter a unique name >
Protocol Description	
Protocol Id	1
Protocol Category	
Buddy Protocol	
Protocol Families	

プロトコルにはシグニチャが含まれます。

- プロトコル名および ID の設定 (p.12-4)
- バディ プロトコル (p.12-4)

プロトコル名および ID の設定

DSS には次の 2 種類のプロトコルを含めることができます。

- SCA BB にとって新しいプロトコル — DSS でプロトコルを定義します。
- SCA BB ですでにサポートされているプロトコル — プロトコルの識別の拡張または修正を DSS で行います。

名前および ID の選択方法は、この 2 つで次のように異なります。

- SCA BB にとって新しいプロトコルの場合、SCA BB がすでにサポートしているプロトコル名に名前を一致させることはできません。サポートされているプロトコルの名前のリストを表示するには、Service Configuration Editor で Protocol Settings ダイアログボックスを開きます（「[プロトコルの表示方法](#)」[p.7-22] を参照）。5000 ~ 9998 の範囲で一意的 ID をプロトコルに割り当ててください。
- 既存プロトコルの場合、DSS のプロトコル名および ID は、サービス コンフィギュレーションのプロトコル名および ID と一致している必要があります。Service Configuration Editor の Protocol Settings ダイアログボックスで名前および ID を特定してください（「[プロトコルの表示方法](#)」[p.7-22] を参照）。

バディ プロトコル

DSS で追加する新しいプロトコルの設定を簡単にするため、DSS では新しいプロトコルのバディ プロトコルを指定できます。アプリケーションは、サービス コンフィギュレーションに DSS をインポートするとき、バディ プロトコルを参照するサービス要素を検出すると、バディ プロトコルを使用する一連のサービス要素を自動的に複製し、バディ プロトコルのすべての参照を新しいプロトコルの参照で置き換えます。新しいプロトコルとサービスの関係は、バディ プロトコルとサービスの関係と一致します。

DSS シグニチャについての情報

プロトコルには、必要な数のシグニチャを含めることができます。

プロトコルには、次の 4 種類のシグニチャを追加できます。

- スtring照合型シグニチャ
- ペイロード長シグニチャ
- HTTP ユーザーエージェントシグニチャ
- HTTP x ヘッダーシグニチャ

4 つそれぞれのシグニチャタイプは、フローの先頭ペイロード パケットでさまざまな条件を検証します。

次のサブセクションでは、このシグニチャタイプと条件について説明します。

String照合型シグニチャおよびペイロード長シグニチャには、詳細検査句を含めることができます。先頭のペイロード パケット条件が満たされるシグニチャは、詳細検査句の条件も満たされる場合、フローを受け入れます。

DSS String照合型シグニチャ

DSS ファイルのコンポーネント ツリーからString照合型シグニチャを選択すると、シグニチャの次のプロパティを定義できるようになります。

- Signature Name — 一意の名前
- Signature Description
- Signature ID — 0xC010000 ~ 0xC0100FF (10 進数の 201392128 ~ 201392383) の範囲の値
- First Payload Packet Conditions
 - Fixed Size Byte String — (表示のみ) 次の 4 つのフィールドによって形成される文字列が表示されます。
 - [0] — 文字列の第 1 バイトの ASCII コードを入力します。すべての値が受け入れ可能であることを示すには、「*」を入力します。
 - [1] — 文字列の第 2 バイトの ASCII コードを入力します。すべての値が受け入れ可能であることを示すには、「*」を入力します。
 - [2] — 文字列の第 3 バイトの ASCII コードを入力します。すべての値が受け入れ可能であることを示すには、「*」を入力します。
 - [3] — 文字列の第 4 バイトの ASCII コードを入力します。すべての値が受け入れ可能であることを示すには、「*」を入力します。
 - String Position — パケットにおける固定サイズ バイト文字列の位置。位置は、パケットの先頭バイトからかぞえた、文字列の先頭バイトの位置です。文字列をパケットの先頭と照合するには、この値をゼロにする必要があります。値は、4 で割り切れる整数にしてください。
 - Packet Direction — ペイロードを含むフローの先頭パケットの開始側。このフィールドには、
 - From Server
 - From Client
 - Don't Care (両側)
 - Port Range — (表示のみ) 次の 2 つのフィールドから形成されるポート範囲。デフォルト値は、0 ~ 65535 の全ポート範囲です。
 - From Port — ポート範囲の下限 (この値を含む)
 - To Port — ポート範囲の上限 (この値を含む)
 - Check before PL — 値 **true** と **false** を切り替えます。

このフィールドは、SCA BB の組み込み Protocol Library (PL; プロトコル ライブラリ) 分類の前にシグニチャをテストするか、そのあとでシグニチャをテストするかを示します。組み込み分類の実行前にシグニチャをテストすると、フローがこのシグニチャと一致した場合、PL 分類はスキップされます。このフィールドを「false」に設定すると、PL 分類でサポート対象プロトコルシグニチャを識別できない場合に限り、このシグニチャはテストされます。

 - 非対称ルーティング分類モード — シグニチャを非対称ルーティング分類モードの状態に従ってテストするかどうかを示します。次の 3 つの値のいずれかになります。
 - Don't Care — このシグニチャを非対称ルーティング分類モードが有効か無効かどうかテストすることを示します。
 - Disabled
 - Enabled
 - Flow Type — (表示のみ) このフィールドには条件を適用するフロー タイプが示されます (複数のタイプに条件を適用可能)。非対称ルーティング分類モードが有効でないと無視されます。

フロー タイプは次の 4 つのフィールドで指定されます。

 - Bidirectional — 値 **true** と **false** を切り替えます。
 - Unidirectional Client Side — 値 **true** と **false** を切り替えます。クライアント側からのパケットのみ検出された TCP フローに適用されます。
 - Unidirectional Server Side — 値 **true** と **false** を切り替えます。サーバ側からのパケットのみ検出された TCP フローに適用されます。

- Unknown (UDP) — 値 **true** と **false** を切り替えます。一方向からのパケットのみ検出された UDP フローに適用されます。

シグニチャが先頭ペイロード パケットのみに従ってプロトコルを識別する場合に限り、Check before PL を **true** に設定してください。シグニチャが詳細検査条件も使用して後のパケットを調べて、シグニチャがフローと一致しない場合、PL 分類は適切に実行されません。

次の図は、ストリング照合型シグニチャのプロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-3

Property	Value
Signature Name	<enter a unique name>
Signature Description	
Signature Id	0xC010000
<input checked="" type="checkbox"/> First Payload Packet Conditions	
<input checked="" type="checkbox"/> Fixed Size Byte String	abcd
[0]	97
[1]	98
[2]	99
[3]	100
String Position	0
Packet Direction	Don't Care
<input checked="" type="checkbox"/> Port Range	0:65535
From port	0
To port	65535
Check before PL	false
Asymmetric Routing Classification Mode	Don't Care
<input checked="" type="checkbox"/> Flow Type	Bidirectional
Bidirectional	true
Unidirectional Client Side	false
Unidirectional Server Side	false
Unknown (UDP)	false

ストリング照合型シグニチャの先頭ペイロードパケット条件と一致するフローは、シグニチャの詳細検査条件と比較されます（「DSS 詳細検査条件」 [p.12-9] を参照）。

DSS ペイロード長シグニチャ

DSS ファイルのコンポーネント ツリーからペイロード長シグニチャを選択すると、シグニチャの次のプロパティを定義できるようになります。

- Signature Name — 一意の名前
- Signature Description
- Signature ID — 0xC010000 ~ 0xC0100FF（10 進数の 201392128 ~ 201392383）の範囲の値
- First Payload Packet Conditions
 - Packet Direction — ペイロードを含むフローの先頭パケットの開始側。このフィールドには、
 - From Server
 - From Client
 - Don't Care（両側）
 - Payload Length — ペイロードパケットのバイト数。
 - Port Range — （表示のみ）次の 2 つのフィールドから形成されるポート範囲。デフォルト値は、0 ~ 65535 の全ポート範囲です。
 - From Port — ポート範囲の下限（この値を含む）

- To Port — ポート範囲の上限（この値を含む）
- Check before PL — 値 **true** と **false** を切り替えます。

このフィールドは、SCA BB の組み込み Protocol Library (PL; プロトコル ライブラリ) 分類の前にシグニチャをテストするか、そのあとでシグニチャをテストするかを示します。組み込み分類の実行前にシグニチャをテストすると、フローがこのシグニチャと一致した場合、PL 分類はスキップされます。このフィールドを「false」に設定すると、PL 分類でサポート対象プロトコルシグニチャを識別できない場合に限り、このシグニチャはテストされます。

- 非対称ルーティング分類モード — シグニチャを非対称ルーティング分類モードの状態に従ってテストするかどうかを示します。次の 3 つの値のいずれかになります。
- Don't Care — このシグニチャを非対称ルーティング分類モードが有効か無効かどうかテストすることを示します。
- Disabled
- Enabled
- Flow Type — (表示のみ) このフィールドには条件を適用するフロータイプが示されます (複数のタイプに条件を適用可能)。非対称ルーティング分類モードが有効でないと無視されます。

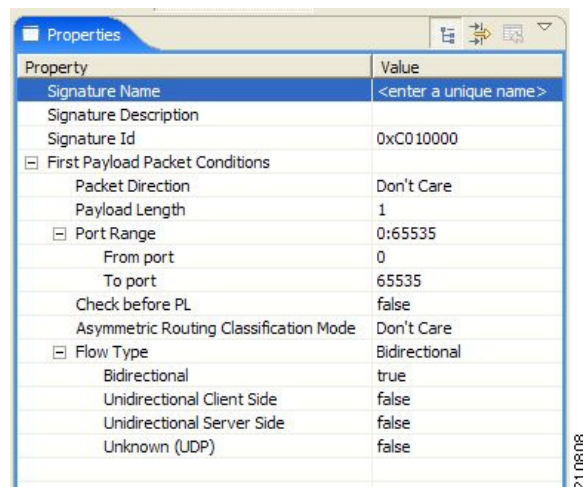
フロータイプは次の 4 つのフィールドで指定されます。

- Bidirectional — 値 **true** と **false** を切り替えます。
- Unidirectional Client Side — 値 **true** と **false** を切り替えます。クライアント側からのパケットのみ検出された TCP フローに適用されます。
- Unidirectional Server Side — 値 **true** と **false** を切り替えます。サーバ側からのパケットのみ検出された TCP フローに適用されます。
- Unknown (UDP) — 値 **true** と **false** を切り替えます。一方向からのパケットのみ検出された UDP フローに適用されます。

シグニチャが先頭ペイロードパケットのみに従ってプロトコルを識別する場合に限り、Check before PL を true に設定してください。シグニチャが詳細検査条件も使用してあとのパケットを調べて、シグニチャがフローと一致しない場合、PL 分類は適切に実行されません。

次の図は、ペイロード長シグニチャのプロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-4



Property	Value
Signature Name	<enter a unique name>
Signature Description	
Signature Id	0xC010000
<input type="checkbox"/> First Payload Packet Conditions	
Packet Direction	Don't Care
Payload Length	1
<input type="checkbox"/> Port Range	0:65535
From port	0
To port	65535
Check before PL	false
Asymmetric Routing Classification Mode	Don't Care
<input type="checkbox"/> Flow Type	Bidirectional
Bidirectional	true
Unidirectional Client Side	false
Unidirectional Server Side	false
Unknown (UDP)	false

ペイロード長シグニチャの先頭ペイロードパケット条件と一致するフローは、シグニチャの詳細検査条件と比較されます (「DSS 詳細検査条件」 [p.12-9] を参照)。

DSS HTTP ユーザ エージェント シグニチャ

DSS ファイルのコンポーネント ツリーから HTTP ユーザ エージェント シグニチャを選択すると、シグニチャの次のプロパティを定義できるようになります。

- Signature Name — 一意の名前
- Signature Description
- Signature ID — 0xC010000 ~ 0xC0100FF (10 進数の 201392128 ~ 201392383) の範囲の値
- Conditions
 - User Agent — HTTP ヘッダーのユーザ エージェント フィールドの値

次の図は、HTTP ユーザ エージェント シグニチャのプロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-5

Property	Value
Signature Name	<enter a unique name>
Signature Description	
Signature Id	0xC010000
Conditions	
User Agent	<user agent>

DSS HTTP x ヘッダー シグニチャ

DSS ファイルのコンポーネント ツリーから HTTP x ヘッダー シグニチャを選択すると、シグニチャの次のプロパティを定義できるようになります。

- Signature Name — 一意の名前
- Signature Description
- Signature ID — 0xC010000 ~ 0xC0100FF (10 進数の 201392128 ~ 201392383) の範囲の値
- Conditions
 - x-Header Field Name — HTTP ヘッダーの x ヘッダーにあるフィールドの名前

次の図は、DSS ファイル プロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-6

Property	Value
Signature Name	<enter a unique name>
Signature Description	
Signature Id	0xC010000
Conditions	
x-Header Field Name	<field name>

DSS 詳細検査句

詳細検査句は、詳細検査条件の接続句です。シグニチャは、この句のすべての条件が満たされる場合に限ってフローを受け入れます。



(注)

シグニチャに複数の詳細検査句がある場合、句およびそれぞれの句を構成する詳細検査条件は、詳細検査条件の Packet Number プロパティの値に基づいてテストされます。

最初のペイロード パケットが最初のペイロード パケット条件によって受け入れられたあとで、Packet Number が最も小さい条件を含む句がテストされます。この句のその他の条件は、Packet Number の昇順で確認されます。このため、句の条件の Packet Number を、それを継承する句の最大 Packet Number より小さくすることはできません。

DSS 詳細検査条件

詳細検査条件は、ストリング照合型シグニチャまたはペイロード長シグニチャの先頭ペイロード パケット条件選別を通過したフローに対してチェックする、一連の条件です。

DSS ファイルのコンポーネント ツリーから詳細検査条件ノードを選択すると、詳細検査条件の次のプロパティを定義できるようになります。

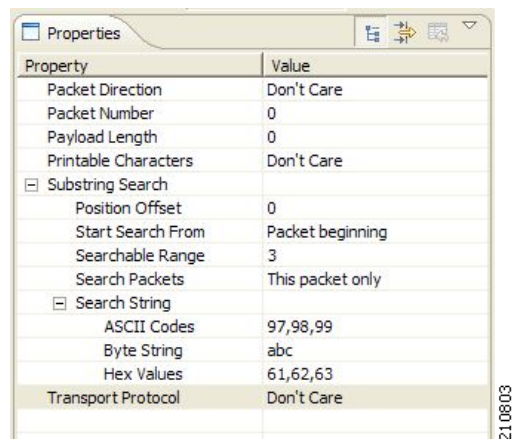
- Packet Direction — ペイロードを含むフローの先頭パケットの開始側。このフィールドには、From Server、From Client、Don't Care（両側）の3つのうちいずれかの値になります。
- Packet Number — フローのパケット番号。ペイロードパケットの番号はゼロから始まり、パケットは両方向でカウントされます。
- Payload Length — バイト単位のパケットの長さ。あらゆる値が受け入れ可能であることを示すには、ゼロを入力します。
- Printable Characters — 検査パケットに印刷可能文字のみが含まれるかどうかをテストします。このフィールドには、Printable Characters Only、At Least One Non-Printable、Don't Care の3つのうちいずれかの値を含めることができます。
- Substring Search — 検索文字列をパケットの特定の位置と照合します。この条件が関係ない場合は、Search String フィールドを空にします。
 - Position Offset — パケットの検索文字列の検索を開始する位置。オフセットは、Start Search From フィールドに指定した位置を基準とした位置です。
 - Start Search From — 次の2つのうちいずれかの値を含めることができます。
 - Packet beginning
 - Last match
 - Last match は、前回の検索で一致した文字列が終わる場所から検索文字列の検索が始まることを表します。最終一致は、前回のサブストリング検索から、または最終文字列ベース先頭ペイロードパケット条件からになります。
 - Searchable Range — 検索文字列のこのバイト数で検索が実行されます。
 - Search Packets — 次の2つのうちいずれかの値を含めることができます。
 - This packet only
 - Multiple packets
 - Multiple Packets は、Searchable Range フィールドに指定したバイト数より合計バイト数が小さい場合、複数のパケットにわたって検索が行われることを示します。
 - Search String — 次の3つのうちいずれかのフィールドに検索文字列を入力します（その他2つのフィールドは自動的に更新されます）。
 - ASCII Codes — 検索文字列の文字の ASCII コードを入力します。各コードはカンマで区切ります。

DSS ファイルの管理についての情報

- Byte String — 実際の検索文字列を入力します。
- Hex Values — 検索文字列の文字の ASCII コードの 16 進値を入力します。各コードはカンマで区切ります。
- Transport Protocol — このフィールドは、次の 3 つのうちいずれかの値になります。
 - TCP
 - UDP
 - Don't Care (TCP または UDP)

次の図は、詳細検査条件プロパティのデフォルト値を示しています。

図 12-7



Property	Value
Packet Direction	Don't Care
Packet Number	0
Payload Length	0
Printable Characters	Don't Care
<input checked="" type="checkbox"/> Substring Search	
Position Offset	0
Start Search From	Packet beginning
Searchable Range	3
Search Packets	This packet only
<input checked="" type="checkbox"/> Search String	
ASCII Codes	97,98,99
Byte String	abc
Hex Values	61,62,63
Transport Protocol	Don't Care

詳細検査条件の構造は、文字列照合型シグニチャおよびペイロード長シグニチャと同じです。

Signature Editor Console

Signature Editor は、適切な場合にログおよびエラーメッセージを Signature Editor Console (Console ビュー) に書き出します。

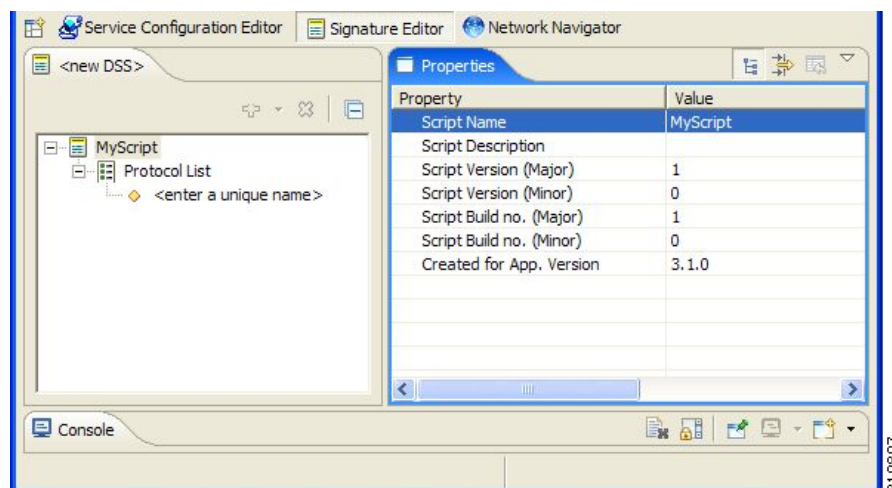
DSS ファイルの作成

Signature Editor で DSS ファイルを開いている場合は、そのファイルを保存してから新しい DSS ファイルを作成してください。保存していないすべての変更内容は失われます。

ステップ 1 ツールバーの  (Create New DSS File) をクリックします。

DSS ファイル ノード、プロトコル リスト ノード、プロトコル ノードを含む DSS コンポーネント ツリーが、Script ビューに表示されます。新しい DSS ファイルのデフォルトプロパティが Properties ビューに表示されます。

図 12-8



ステップ 2 DSS ファイル プロパティを編集します。

プロパティの説明については、「[DSS ファイル](#)」(p.12-2) を参照してください。

ステップ 3 プロトコル ノードをクリックします。

プロトコル プロパティが Properties ビューに表示されます。

ステップ 4 プロトコル プロパティを編集します。

プロパティの説明については、「[DSS プロトコルについての情報](#)」(p.12-3) を参照してください。


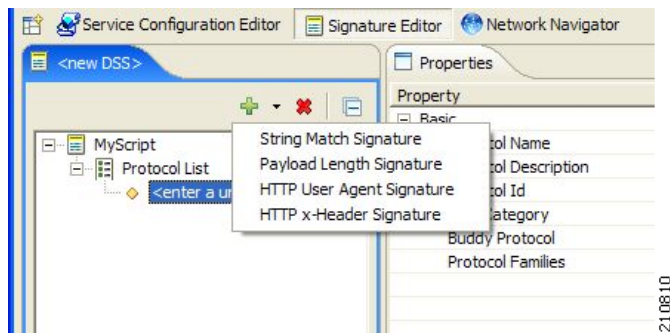
ステップ 5  ボタンの横のドロップダウン矢印をクリックします。

図 12-9

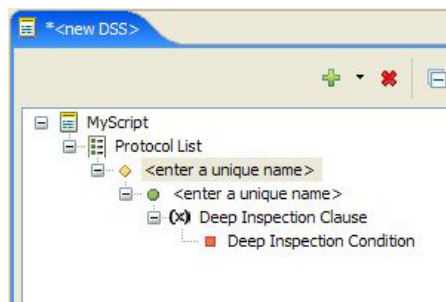


ステップ 6 表示されるドロップダウンメニューからシグニチャタイプを選択します。

シグニチャノードがプロトコルノードの下に追加されます。

ストリング照合型シグニチャまたはペイロード長シグニチャを選択した場合は、詳細検査句ノードおよび詳細検査条件ノードも追加されます。

図 12-10



ステップ 7 シグニチャノードをクリックします。

シグニチャプロパティが Properties ビューに表示されます。

ステップ 8 シグニチャプロパティを編集します。

プロパティの説明については、「[DSS シグニチャについての情報](#)」(p.12-4) を参照してください。

ステップ 9 ストリング照合型シグニチャまたはペイロード長シグニチャを選択した場合は、次のように操作します。

a. Deep Inspection Condition ノードをクリックします。
詳細検査条件プロパティが Properties ビューに表示されます。

b. 詳細検査条件プロパティを編集します。

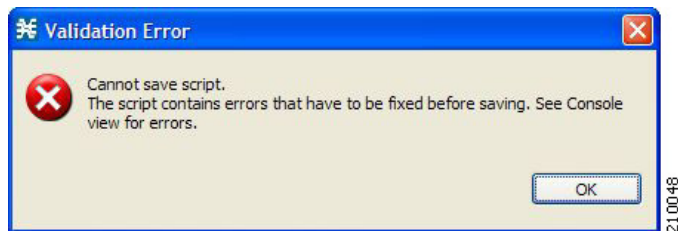
プロパティの説明については、「[DSS 詳細検査条件](#)」(p.12-9) を参照してください。


ステップ 10 詳細検査条件、詳細検査句、シグニチャ、プロトコルを必要に応じてさらに追加します。

ステップ 11 ツールバーの  (**Save**) をクリックします。

- プロトコル名またはプロトコル ID が重複している場合は、Validation Error メッセージが表示されます。

図 12-11



OK をクリックして重複を解決してから、 (**Save**) を再びクリックします。
Save As ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 12 新しい DSS ファイルを保存するフォルダを選択します。

ステップ 13 DSS ファイルの適切な名前を File name フィールドに入力します。

ステップ 14 **Save** をクリックします。

Save As ダイアログボックスが閉じます。

DSS ファイルが保存されます。

DSS ファイルの編集

既存の DSS ファイルを編集して新しいプロトコルを追加したり、既存プロトコルの修正または削除を行ったりすることができます。

Signature Editor で DSS ファイルを開いている場合は、そのファイルを保存してから別の DSS ファイルを開いてください。保存していないすべての変更内容は失われます。

ステップ 1 ツールバーの  (**Open a DSS File**) をクリックします。

Open ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 編集する DSS ファイルを選択します。

ステップ 3 **Open** をクリックします。

Open ダイアログボックスが閉じます。


選択したファイルの DSS コンポーネント ツリーが **Script** ビューに表示されます。

DSS ファイル ノードが選択され、DSS ファイルのプロパティが **Properties** ビューに表示されます。

ステップ 4 DSS ファイル コンポーネントの追加、編集、削除を行います。

さまざまなコンポーネントのプロパティの説明については、「[DSS ファイルのコンポーネントについての情報](#)」(p.12-2) のサブセクションを参照してください。

ステップ 5 修正した DSS ファイルを保存します。

- 変更内容で現在の DSS ファイルを上書きするには、次のように操作します。
 - ツールバーの  (**Save**) をクリックします。
 - DSS ファイルの変更が保存されます。
 - 修正した DSS ファイルを新しい名前でも保存するには、次のように操作します。
 - **File > Save As** の順に選択します。
 - Save As ダイアログボックスが表示されます。
 - 新しい DSS ファイルを保存するフォルダを選択します。
 - DSS ファイルの適切な名前を **File name** フィールドに入力します。
 - **Save** をクリックします。
 - Save As ダイアログボックスが閉じます。
 - 修正した DSS ファイルが新しい名前でも保存されます。
-

シグニチャのインポート

現在編集しているファイルに DSS ファイルをインポートできます。

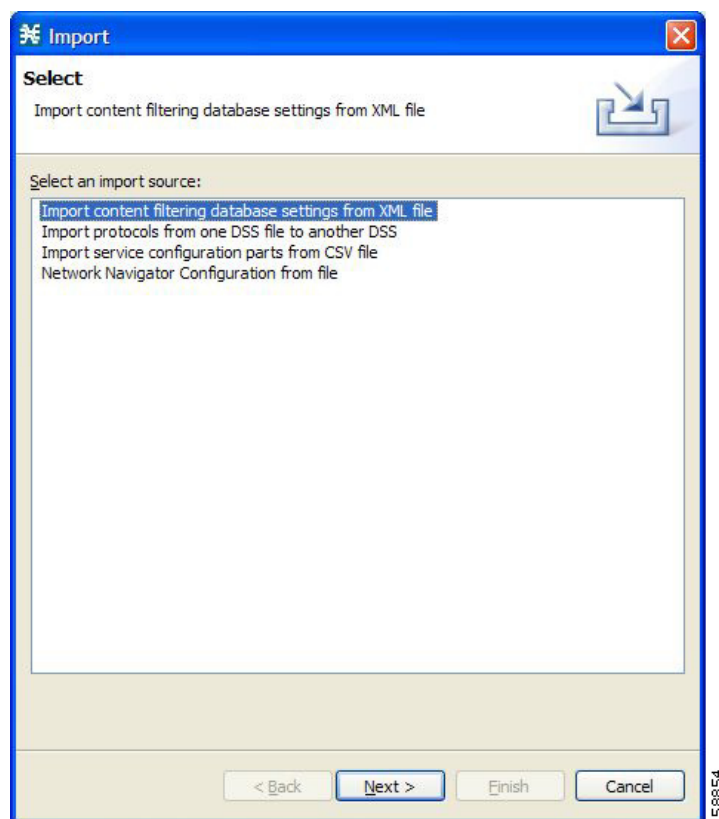


(注) シグニチャをインポートすると、プロトコル名またはプロトコル ID が重複することがあります。

ステップ 1 Console のメインメニューから、**File > Import** の順に選択します。

Import ダイアログボックスが表示されます。

図 12-12

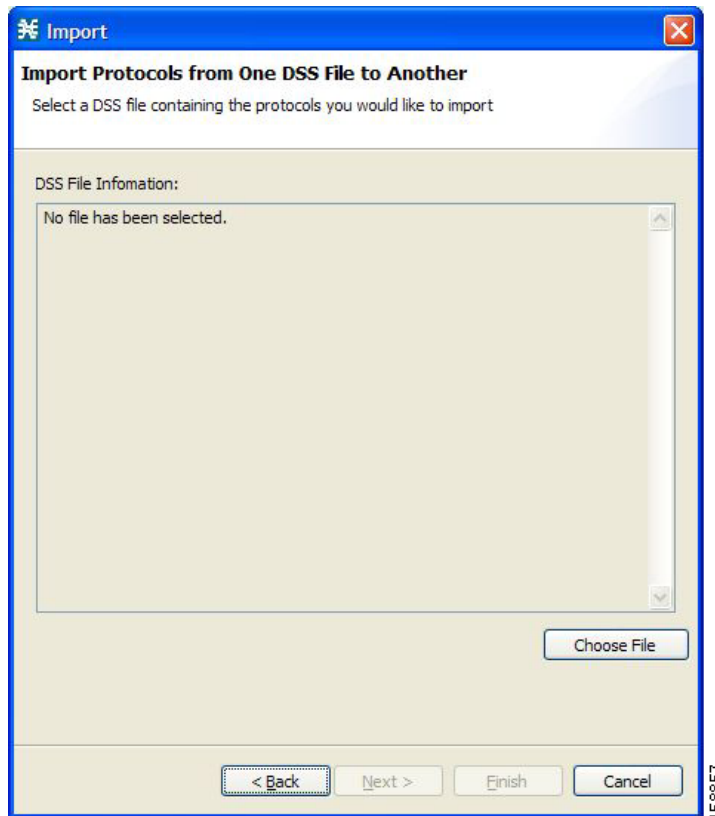


ステップ 2 インポート元リストから **Import protocols from one DSS file to another DSS** を選択します。

ステップ 3 **Next** をクリックします。

Import ダイアログボックスの第 2 画面が表示されます。

図 12-13



ステップ 4 **Choose File** をクリックします。

Open ダイアログボックスが表示されます。

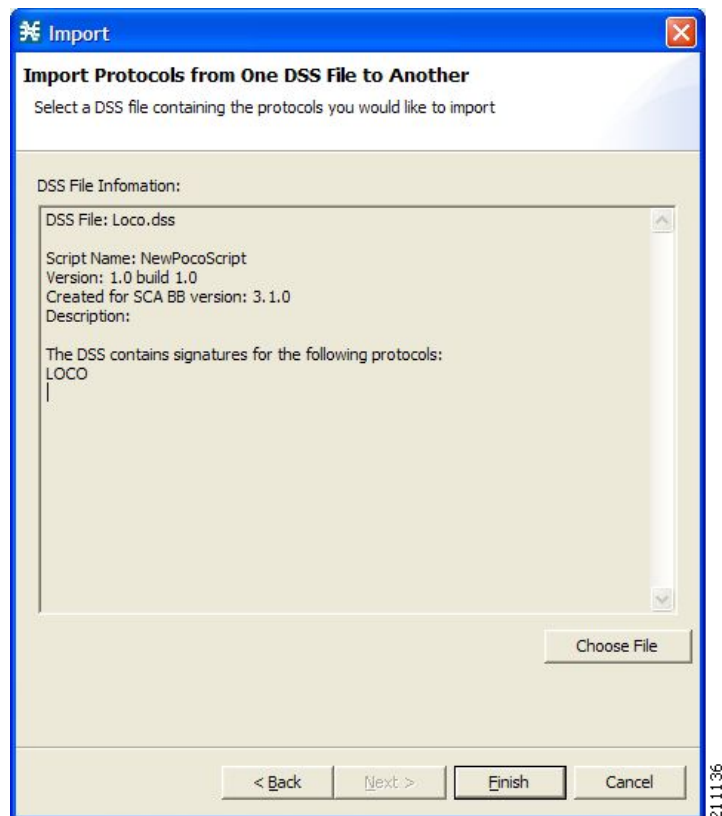
ステップ 5 インポートする DSS ファイルを選択します。

ステップ 6 **Open** をクリックします。

Open ダイアログボックスが閉じます。

選択した DSS ファイルに関する情報が、DSS File Information 領域に表示されます。

図 12-14



ステップ 7 **Finish** をクリックします。

Import ダイアログボックスが閉じます。

選択した DSS ファイルの内容が Signature Editor にインポートされます。

■ シグニチャのインポート